

第30回泌尿器科漢方研究会学術集会

会期: 2012/04/23 ~ 2012/04/23 会場: パシフィコ横浜(神奈川県)
会長:

誌名: 第30回泌尿器科漢方研究会学術集会講演要旨集

Vol : No. Page : 1 発行年: 2012

間質性膀胱炎/慢性骨盤痛症候群の 漢方併用療法の解析

横浜元町女性医療クリニックLUNA
○関口 由紀、畔越 陽子、長崎 直美
河路 かおる、増子 香織

【はじめに】間質性膀胱炎/慢性骨盤痛症候群の局所療法をのぞく内服治療は、線維筋痛症をはじめとする全身の慢性疼痛症と同様の方法で行なわれる。慢性疼痛症では、現代医学的治療で痛みに関しては比較的早期に症状改善が見込まれるが、その後治癒までの過程で、疲労感、食欲低下、めまい、睡眠障害、ドライマウス、かゆみ、ホットフラッシュ、冷え、便秘などの様々な自律神経失調症状が出現し、次々に患者を悩ませることになる。

【目的】間質性膀胱炎/慢性骨盤痛症候群の疼痛緩和後の自律神経失調症状へ漢方治療の当院における現状について解析した。

【方法と対象】2005年4月から2011年8月までで膀胱痛症候群間質性膀胱炎/慢性骨盤痛症候群として治療した患者374名であった。このうち漢方薬を使用していたのは、129名35%であった。さらに漢方単独処方34例26%。西洋薬・漢方薬併用が92例74%であった。この92例に関して、漢方薬投与の目的と使用方剤を解析した。

【結果】西洋薬は、末梢神経障害性疼痛治療薬、知覚過敏改善治療薬、免疫調整薬、尿排出障害改善薬、尿アルカリ化薬、女性ホルモン関連薬などが処方されていた。これらの西洋薬に追加された漢方は、膀胱の炎症改善薬（竜胆瀉肝湯12例、猪苓湯（合四物湯）6例、五淋散3例）、口渴改善薬（牛車腎気丸5例、八味地黄丸3例、清心蓮子飲4例）、冷え改善薬（安中散20例、当帰四逆加呉茱萸生姜湯8例、加味逍遙散5例、柴胡桂枝乾姜湯1例、真武湯1例、桂枝茯苓丸1例）、免疫力改善薬（補中益気湯7例、六君子湯2例、四君子湯1例、人參湯1例）、便秘改善薬（桃核承気湯7例、潤腸湯1例、麻子仁丸1例、乙字湯2例、大承気湯1例）、不安解消薬（茯苓飲1例、酸棗仁湯1例、半夏厚朴湯1例）疼痛緩和（桂枝加朮附湯1例、芍薬甘草湯3例、防己黃耆湯1例）、めまい改善薬（苓桂朮甘湯2例）であった。

【まとめ】間質性膀胱炎/慢性骨盤痛症候群の治療においては、疼痛緩和後の自律神経失調症状の緩和のみでなく、慢性疼痛症患者の“気虚・瘀血・水滯”の治療のために漢方療法は重要である。